



梅原で生まれ育ったことの自信と誇り

行動規制緩和の方針が示されるなど、新型コロナウイルス感染症によって制限されてきた私たちの生活にも変化が始まるような情勢ですが、梅原小学校の子どもたちは感染防止のための基礎・基本を徹底し、従来の活動の内容と方法を工夫しながら、自分たちの手で安全・安心な学校生活を創り出しています。

さて、小学校の教育課程には、教科学習と並んで「総合的な学習の時間」が位置づけられています。これは、児童が自分で課題を見つけ出し、調べたり考えたりして問題を解決する力を育てるために設けられた学習の時間で、2002年度に始まりました。総合的な学習の時間の名称や目標及び内容は各学校で定めることとなっており、梅原小学校では「梅っこタイム」と称して、3年生から6年生がそれぞれに探究課題を設定して取組を進めています。

6年生は、探究課題の一つに「梅原荘」をキーワードとした地域学習を位置づけ、私たちの住む梅原の歴史と文化を深く学ぼうとしています。学びの入口は「加茂神社」です。地域を挙げて行われる加茂神社大祭を経験している子どもたちです。梅原と加茂神社の深いつながりを感じてはいるものの、その歴史的な背景についてはよく知りません。そこで、まずは加茂神社を改めて見つめ直すことから始めました。

加茂神社の歴史は平安時代まで遡り、京都・下鴨神社と深いつながりがあることを知った彼ら

は、宮司の鬼頭英雄様を講師に招き、加茂神社と共にある梅原の歴史の一端を学びました。修学旅行で下鴨神社を訪れた際には、鬼頭様のお取り計らいで、一般には入ることができない東の御料屋に上げていただき、神職から詳しく説明を頂くことができました。ある児童は修学旅行記に「下鴨神社は丁寧に大事にされていたので、自分の地域にある物や歴史を大切にしたいです。」「特に僕は、自分の地域（加茂神社）の歴史を知ることができたことが嬉しかったです。」とまとめています。自分が住む地域にはどんな歴史があり現在につながっているのか。他とのどのような関係性の中で現在の生活が成り立っているのか。足元をじっくり丁寧に見つめ直すことと、外部からの視点で見つめ直すことによって、私たちの住む地域の良さや課題が見えてきます。そして、多くの人のつながりが地域をつくり動かしていること、自分もその一員であることを自覚します。自分が、大切な命のバトンをつないでいることを自覚します。

第3次岐阜県教育ビジョンでは、基本的な考え方として、「ふるさとに誇りをもち、『清流の国ぎふ』を担う子どもたちの育成」を掲げ、世界的な視野をもち、地域社会の活性化に貢献する『地域社会人』を、目指す姿としています。数年後、各界で活躍するであろう目の前の子どもたちに、その基盤として、梅原の地で生まれ育ったことの自信と誇りを確かなものとして心に根付かせることが、私たち大人の使命です。